

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34419
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2017～2022
 課題番号：17K02055
 研究課題名（和文）日本と中国の地域資源をいかした都市・農村間連携モデルと持続可能コミュニティの創出
 研究課題名（英文）Creation of a model for urban-rural partnerships using local resources and sustainable communities in Japan and China
 研究代表者
 藤田 香 (Fujita, Kaori)
 近畿大学・総合社会学部・教授
 研究者番号：00319899
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では日本と中国の地域資源をいかした都市・農村連携モデルと持続可能コミュニティの創設について研究した。文献調査、国内外の実地調査をもとに、論文執筆ならびに国内外の学会で報告した。貴州師範大学の研究者を招聘し、国際ワークショップを開催し、研究ネットワークの構築と研究成果の社会的還元をおこなった。コロナ禍による研究期間延長中は、科学研究費助成事業新学術領域研究（提案型）『学術研究支援基盤形成』地域画像デジタルライブラリによる支援を受け、地域調査の記録写真を「中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済」写真コレクションとして、データベース化し、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元に着手している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 本研究の学術的意義は、中国貴州省少数民族地域における実地調査について、現地研究者やNPOの協力により、関係者ならびに村人から直接情報収集を行い研究をすすめた点にある。また海外研究者を招聘し、国際ワークショップを開催し、研究ネットワークの構築と研究成果の社会的還元をおこなったこと、コロナ禍による研究期間延長中に科学研究費助成事業新学術領域研究（提案型）『学術研究支援基盤形成』地域画像デジタルライブラリによる支援を受け、地域調査の記録写真を「中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済」写真コレクションとして、データベース化し、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元に着手した点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we researched Creation of models for urban-rural partnerships using local resources and sustainable communities in Japan and China. Based on the literature survey and domestic and international field surveys, we wrote papers and presented our research results at domestic and international academic conferences. We invited researchers from Guizhou Normal University and held an international workshop to build a research network and return research results to society.

During the extension of the research period due to the Corona Disaster, with the support of the Digital Library of Regional Images of the Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas, Formation of Infrastructure to Support Academic Research, the project has begun to return research results to society by creating a database of photographs documenting regional surveys as the "Nature, Culture, Society, and Economy of the Western China Inland Region" photo collection and making them available to society.

研究分野：地域研究、持続可能社会論、環境経済学

キーワード：地域研究 中国貴州省 持続可能な発展 ソーシャル・ビジネス 都市・農村連携モデル 非物質文化
 ・伝統文化 ミャオ族 藍染め・ろうけつ染め

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

持続可能な社会あるいは持続可能なコミュニティの構築に向けて、わたしたちは何をすべきか。地域の疲弊は自然資本に依存し、時として厳しい自然環境への適応を求められていた地域にとっては、地域コミュニティの衰退が自然資本の劣化を導くことから、森林、水、流域といった自然資源を維持管理するためには、地域社会を持続可能にすることが何よりもまず求められる(環境面)。また、人と自然の境界線を意識しつつ、地域住民が安心して暮らせる自律したコミュニティをいかに住民主体となって構築していくかについて、自然環境の脆弱性、社会環境の変化を前提としたうえで、社会政策上の公正と効率、合理性、安定性といった視点から検討するとともに地域の経済的自立の方法を探究することが重要である(経済面)。こうした地域の持続可能性を考える場合には、コミュニティのあり方をとらえなおす必要がある。

戦後日本は、高度経済成長期を経て、都市の過密化と農山村の過疎化といった地域の不均等発展をもたらした。とりわけ農山村における地域間格差は、現代的貧困が重層的に蓄積されている。また人口減少、高齢化、少子化を背景とした地域の疲弊は、従来から議論されてきた過疎問題やそれに派生する地域社会の弱体化にもかわり、同様の現象は中国をはじめとした東アジアの急速に経済発展を遂げた地域にも共通である。申請者らはこれまで地域の持続可能性に着目し、継続して研究を続けている。また研究代表者は『貧困・環境と持続可能な発展』(2011、勁草書房)を基盤研究B「中国貧困省の持続可能な発展に向けた社会経済学的研究 貴州省の典型地域研究」の研究成果として公表している。こうした研究成果は、環境変化の中での地域の課題解決を目的としたものであるが、本研究はこれらを発展させ、地域の持続可能性と経済的自立の両立について実地調査をもとにそのモデル創出を行うものである。

本研究は、地域社会の疲弊が地域の文化や伝統の維持を困難にしている点、地域の持続可能性を議論する際には、地域の経済的自立が欠かせない点の双方に着目している。従来の地域研究は、社会動態の変化や地域コミュニティの形成といった社会学的なアプローチや財政的、地域の産業分析等の経済学的なアプローチが主流であった。本研究では(地域)社会および経済、環境をリンクさせ、地域、環境、社会問題に関する人々の実践と政策の相互作用について、日本のみならず中国も対象として実地調査による複数の事例の比較検討による経済社会学的アプローチを総合的に行う点が斬新である。また社会・環境政策から地域社会支援まで、多層な政府レベルと地域、企業と地域、NGOあるいはNPOと地域、都市部と農村部といった多様な地域の協働や連携のあり方に着目し、その実践過程で獲得した知識や知見、ノウハウ等を比較検討することで、いかに他地域にその政策をいかし、社会的問題の解決につなげていくか、という明確な問題意識に立つ政策研究である。

2. 研究の目的

近年、社会的課題をビジネスで解決するソーシャルビジネス(社会的企業)が注目されている。本研究では、日本と中国の地域資源をいかした都市・農村間連携モデルと持続可能コミュニティ

を創出するにあたり、地域の課題解決を目指す人々の実践過程に着目する。

地域の持続可能性は、同時に地域が経済的に自立することで可能となる。本研究では、実践を通してこうした取り組みを行う日本と中国の諸事例について、参与観察を含む実地調査によって比較検証しながら、社会経済学的アプローチによる都市・農村連携モデルの創出を行う。本研究成果は、社会的課題の解決と経済的自立の両立を目指す、現場主義に立つ地域活性化政策を促すとともに、同分野におけるフレームワーク形成と地域間連携・国際協力の展開を促進する知的基盤となる。

3 . 研究の方法

社会動態の変容と地域社会の衰退については、これまで経済学や社会学などで議論されてきたが、こうした社会構造全体における地域社会の変容を再認識し、歴史的・比較文化的分析、あるいは文化人類学の視点を加え、持続可能なコミュニティと地域の経済的自立の両立に向けた本格的な比較事例分析はない。応募者らはそれぞれの専門分野をいかし、これまで日本国内における都市 農村連携モデル(藤田)や日本の都市と中国の農村における連携モデル(大塚・松永・山田)に関連する研究の蓄積がある。加えて、中国少数民族地域を拠点にした新たな都市 農村連携モデルを探求している暁冬教授(中国・貴州師範大学)からは、研究協力者として本研究課題に参加していただいた。こうした現場主義に立つ地域研究をすすめることで、急激に進行する都市化と少子高齢化の流れのなかで、地域が抱える課題を明らかにし、その解決策を提示することは、今後、経済発展し、都市化および都市化が進行する地域においても示唆的である。

本研究では社会経済学的アプローチによる都市・農村連携モデルの創出を行う。具体的には以下の三つの連携モデルの創出をめざした。第一に日本国内における都市 農村連携モデルである。第二に日中間の連携について、日本の NGO・緑の地球ネットワークによる地域資源の保全・再生、アズの植樹等による貧困対策支援や日本の経験を参照しながら新たな都市農村間連携の萌芽が見られる、大地の会による中国におけるグローバル・マーケットとの接続を先行事例とした日本の都市と中国の農村における連携モデルの実地調査とその検証である。第三に、中国国内における都市 農村連携モデルについて貴州省苗族の伝統文化継承のためのマイクロ・ファイナンスの取り組み事例である。以上の三つのモデルの参与観察を含む実地調査によって、社会経済学的アプローチによる都市・農村連携モデルの創出を試みた。

4 . 研究成果

研究実施期間を通じて、文献調査として、各研究メンバーが分担して、電子データベースや関連学会会員の出版書籍、学術論文等を渉猟し、先行事例研究のサーベイと最新研究動向の把握を行った。また研究会を実施することで、研究報告や実地調査の成果についての情報共有や次年度の研究計画の見直しならびに研究成果の公表等について十分な議論ができた。

年度ごとの研究成果は以下に示すとおりである。

平成 30 年度は実地調査として、国内では伝統工芸に関する調査として京都西陣織工業組合、国外では中国広州における研究交流ならびに中国貴州省の少数民族地域を対象とした地域調査

ならびにヒアリングを行った。中国貴州省における地域調査では、住民や住民組織、NGO・NPO、地方政府関係者や大学研究者等から実施し、資料収集ならびに情報整理を行った。今年度の調査においては地方政府関係者ならびに現地研究者や NPO の協力により、本研究課題である地域の課題解決と経済的自立をめざしたいいくつかのモデル、非物質文化の継承、例えば、紙漉きや銀細工、芦笙の伝承やミャオ族の藍蠟染めをめぐるソーシャルビジネスとしての萌芽的取り組みについて、関係者、传承人、村人から直接情報収集できたことを評価したい。

平成 31 年度(令和元年度)は 国際開発学会(国内)ならびに東アジア環境経済資源学会(国外：北京大学)において、口頭報告をおこなった。研究協力者である任曉冬教授(貴州師範大学(中国))を招聘し、実地調査として、国内(京都、奈良、岡山(倉敷))において伝統工芸と社会的企業に関する地域調査ならびにヒアリングをおこなった。任曉冬教授(貴州師範大学(中国))と落合雪野教授(龍谷大学)を発表者とした国際ワークショップを企画、開催し、研究ネットワークの構築と研究成果の社会的還元をおこなった。平成 31 年度(令和元年度)の調査においては本研究課題である地域の課題解決と経済的自立をめざしたこれまでの中国におけるいくつかのモデル、非物質文化(伝統文化)の継承について日中の比較をおこなうことができた。これらの成果として、これまでの調査結果を中心に共同執筆による論文を学術誌(査読あり)に公表した。

令和 2 年度は 国際開発学会(国内)において、口頭報告をおこなった。本プロジェクトが科学研究費助成事業新学術領域研究(提案型)『学術研究支援基盤形成』地域画像デジタルライブラリによる令和 2 年度公募プロジェクトに採択され、本研究による地域調査の記録写真を「中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済」写真コレクションとして、デジタル化、データベース化することで、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元を行う準備に着手した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況により国内外の地域調査が実施できなかったが、本研究課題である地域の課題解決と経済的自立をめざしたこれまでの中国におけるいくつかのモデル、非物質文化(伝統文化)の継承について、これらの成果として、これまでの調査結果を中心に IDE スクエア(IDE-JETRO(日本貿易振興機構アジア経済研究所))におけるコラムの執筆を行った(「中国貴州・ミャオ族の村々から」第 1 回 藍染の村(1) / 山田 七絵 2020/10/27、第 2 回 藍染の村(2) 文化と市場をつなぐ人々 / 藤田 香 2020/12/28、第 3 回 藍染の村(3) 支援する人々 / 大塚 健司 2021/02/15)。

令和 3 年度は採択された科学研究費助成事業新学術領域研究(提案型)『学術研究支援基盤形成』地域画像デジタルライブラリによる令和 2 年度公募プロジェクトの支援を受け、本研究による地域調査の記録写真を「中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済」写真コレクションとして、デジタル化、データベース化することで、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元を行う準備を継続して実施した。令和 3 年度も令和 2 年度同様に新型コロナウイルス感染症の拡大状況により国内外の地域調査が実施できなかったが、本研究課題である地域の課題解決と経済的自立をめざしたこれまでの中国におけるいくつかのモデル、非物質文化(伝統文化)の継承について研究成果の公表等についての情報共有について十分な議論を行い、これらの成果として、こ

れまでの調査結果を中心に IDE スクエア (IDE-JETRO (日本貿易振興機構アジア経済研究所)) におけるコラムの執筆ならびに学会誌への投稿を行った (コラムの執筆 : 「 中国貴州・ミャオ族の村々から 」 第 4 回 村の匠たち (1) 無形文化遺産の保護と「 伝承人 」 / 山田 七絵、第 5 回 村の匠たち (2) 文化を受け継ぐ人々 / 山田 七絵、第 6 回 村のごちそう / 山田 七絵、学会誌への投稿 : 藤田香 (2021) 「 貴州蠶染 」 の保全と継承における越境的実践 『 国際開発研究 』 第 30 巻第 2 号) 。

令和 4 年度は引き続き、採択された科学研究費助成事業新学術領域研究 (提案型) 『 学術研究支援基盤形成 』 地域画像デジタルライブラリによる令和 2 年度公募プロジェクトの支援により、本研究による地域調査の記録写真を「 中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済 」 写真コレクションとして、デジタル化、データベース化することで、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元を行う準備を継続して実施した。また令和 4 年度も令和 2 年度、令和 3 年度度同様に新型コロナウイルス感染症の拡大状況により国外での地域調査が実施できなかったが、令和 4 年度は本研究課題である地域の課題解決と経済的自立をめざした取り組みについて、国内調査の実施を再開することができた。

研究期間全体を通じて、本研究課題を中国貴州師範大学との共同研究の中で推進し、スタディーツアーや国際セミナーを通じて社会に還元することができた。またこれまでの中国におけるいくつかのモデル、非物質文化 (伝統文化) の継承について研究成果の公表等についての情報共有について十分な議論を行い、これらの成果として、新型コロナウイルス感染拡大前までの調査結果を中心に IDE スクエア (IDE-JETRO (日本貿易振興機構アジア経済研究所)) におけるコラムの執筆ならびに学会誌への投稿を行うとともに関連する学会において研究発表も行っている。

本研究では、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により国内外での地域調査が実施できなかったため、研究実施期間の延長を余儀なくされたが、実践を通してこうした取り組みを行う日本と中国の諸事例について、参与観察を含む実地調査によって比較検証しながら、社会経済学的アプローチによる都市・農村連携モデルの創出を一定行うことができた。また本研究成果は、社会的課題の解決と経済的自立の両立を目指す、現場主義に立つ地域活性化政策を促すとともに、同分野におけるフレームワーク形成と地域間連携・国際協力の展開を促進する知的基盤となった。加えて令和 2 年度に採択された科学研究費助成事業新学術領域研究 (提案型) 『 学術研究支援基盤形成 』 地域画像デジタルライブラリによる令和 2 年度公募プロジェクトの支援により、本研究による地域調査の記録写真を「 中国西部内陸地域の自然・文化・社会・経済 」 写真コレクションとして、デジタル化、データベース化することで、広く社会に公開し、研究成果の社会的還元を行うことは大きな成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 藤田 香	4. 巻 30
2. 論文標題 「貴州蠶染」の保全と継承における越境的実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.30.2_41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚 健司	4. 巻 30
2. 論文標題 越境的実践がつむぐガバナンス 持続可能性の協働解決に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.30.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田 七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 第6回 村のごちそう	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE スクエア -- コラム 中国貴州・ミャオ族の村々から	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/00052852	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田 七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 第5回 村の匠たち(2) 文化を受け継ぐ人々	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE スクエア -- コラム 中国貴州・ミャオ族の村々から	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/00052208	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田 七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 第4回 村の匠たち(1) 無形文化遺産の保護と「伝承人」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE スクエア -- コラム 中国貴州・ミャオ族の村々から	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/00052127	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永 光平	4. 巻 91 (10)
2. 論文標題 自然地理学の学習方法を歴史にみる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 991-993
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田香	4. 巻 -
2. 論文標題 藍染の村(2)文化と市場をつなぐ人々	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚健司	4. 巻 -
2. 論文標題 藍染の村(3)支援する人々	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 藍染の村(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 中国のマツタケ 日本向け輸出への打撃と国内需要への期待	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 -
2. 論文標題 中国 失われた食の風景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田香、大塚健司、山田七絵、松永光平	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 地域資源をいかした持続可能な コミュニティ構築のための都市・農村間連携 中国貴州省の少数民族 地域 における2017年・2018年調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近畿大学総合社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 39-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otsuka, Kenji	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 Shift in China's commitment to regional environmental governance in Northeast Asia?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 16-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24761028.2018.1504643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚健司	4. 巻 2018年10月
2. 論文標題 中国NGOの「走出去」が拓く新時代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 2019年3月29日
2. 論文標題 中国の有機農業ビジネス 現代の『四千年農夫』をめざして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 ウェブコンテンツ
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 第2巻第2号
2. 論文標題 (書評) 田島俊雄・池上彰英編「WTO 体制下の中国農業・農村問題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国経済経営研究	6. 最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田香・大塚健司	4. 巻 3
2. 論文標題 防災・減災をめぐる地域コミュニティの持続可能性 南海トラフ地震への対応を迫られる高知市の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第3回東日本大震災研究交流会研究報告書	6. 最初と最後の頁 44-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田七絵	4. 巻 264
2. 論文標題 中国/新しい農業経営モデル 四川省の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジアワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永光平	4. 巻 69
2. 論文標題 学会展望(2016年1月~12月) - 自然環境・災害 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 361-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.69.03_303	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永光平	4. 巻 656
2. 論文標題 Cosmic geographyは可能か: リッター『一般地理学』に基づく検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 735-750
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 藤田香
2. 発表標題 非物質文化の継承とコミュニティからの越境的実践
3. 学会等名 国際開発学2020年全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 SDGsと草の根協力 経験と発展
3. 学会等名 2020年度中日社会学会年会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 中国の環境汚染問題のフィールドにおける越境的共創－淮河流域におけるNGOと研究者の協働から
3. 学会等名 国際開発学2020年全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田香
2. 発表標題 「越境的実践」による非物質文化の継承とソーシャルビジネスの萌芽的取り組みについて 中国貴州省を事例として
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 「越境的実践」からガバナンスを考える：アジアの持続可能性課題の協働解決に向けて
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUJITA, Kaori, OTSUKA, Kenji, YAMADA, Nanae, MATSUNAGA, Kohei, REN, Xiaodong
2. 発表標題 Urban-Rural Cooperation Model of Local Resources and Building Sustainable Community of Ethnic Groups in China: A Case Study of Batik Production by the Miao People in Guizhou Province
3. 学会等名 EAAERE2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujita, Kaori and Kenji Otsuka
2. 発表標題 Sustainable local communities in disaster prevention and risk reduction: A case study of Kochi City to prepare for the Nankai Trough earthquake, Japan
3. 学会等名 EMECs12 "Cooperative stewardship for intergrated management toward resilient coastal seas" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 中国の環境・地域社会の持続可能性をめぐる諸問題の協働解決に向けたフィールドワークの試み
3. 学会等名 2018 (平成30) 年度 海外学術調査フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Otsuka, Kenji
2. 発表標題 Community based approaches to coastal and river basin governance in Asia
3. 学会等名 EMECs12 "Cooperative stewardship for intergrated management toward resilient coastal seas" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Otsuka, Kenji
2. 発表標題 Cross-boundary practices on water governance in China: How can we secure 'our water' in and beyond boundaries?
3. 学会等名 Sophia Symposium Global Water Security and the SDGs: Japan's Role at Home and Abroad (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田香・大塚健司
2. 発表標題 資源をいかした都市・農村間連携モデルと持続可能コミュニティの創出
3. 学会等名 環境経済・政策学会2017年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 中国の環境問題 日本からどう向き合うか
3. 学会等名 法政大学環境センター環境講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 Reflections on Transnational Research Cooperation
3. 学会等名 The 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESEA-6) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚健司
2. 発表標題 コメント：研究と実践の融合はいかにして可能か？
3. 学会等名 2017年日本沙漠学会秋季公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 山田七絵（清水達也編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 241
3. 書名 第2章途上国における「中国における『農業産業化』と小農経営の変容 農民專業合作社による大型畑作経営の事例」担当。『途上国における農業経営の変革』	

1. 著者名 大塚健司（第4章執筆）（岡本信広編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 241
3. 書名 中国の都市化と制度改革（工業都市のリスク・ガバナンス 天津市濱海新区の事故から）	

1. 著者名 山田七絵（第5章執筆）（岡本信広編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 241
3. 書名 中国の都市化と制度改革（都市・農村発展の一体化 農村改革の到達点と課題 ）	

1. 著者名 松永光平（分担）田島俊雄、池上彰英編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 WTO体制下の中国農業・農村問題（中国農業の環境・資源制約 政策・技術的対応の到達点と課題 ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山田 七絵 (Yamada Nanae) (10450537)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター環境・資源研究グループ・研究グループ長代理 (82512)	
研究 分担者	大塚 健司 (Otsuka Kenji) (20450489)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター環境・資源研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究 分担者	松永 光平 (Matsunaga Kohei) (80548214)	立命館大学・文学部・准教授 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 龍谷大学農学会オープンセミナー：文化資源をいかした地域づくりへの取り組み	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	貴州師範大学			